1人1台タブレットを活用した生徒主体の学習

~ 和歌山県 和歌山大学教育学部附属中学校 ~

ツ

を

用

題



を生さ人活 2 活徒ま1 用 0 1 用 0 和 ざ は 用 1 学まタ 7 8 Ш い年 や場 ま度 家面 ょ で 庭 で てご紹介します 用末 みじ 度 を ん のな 7 附 スで自 購 な 新 0) 属 の学 ま 学 1 中 す。 用 分 習 「クラブ」 授 その 業 ょ で 中な り

第19号

数学では、単元のまとめいます。授業の始めに先生かいます。授業の始めに先生かいます。授業の始めに先生かいます。授業の始めに先生かいます。授業の始めに先生かいます。受習を進めるかは生徒自身学習を進めるかは生徒自身で決めます。先生はそれぞで決めます。先生はそれぞで決めます。先生はそれぞで決めます。先生はそれぞがあるように、アドグ習を進めるように、アドグマスをしています。



▲iプリ番号を黒板に提示します。



標準プリントとパターンプリントを おすすめしています。

BYODで1人1台iPad

新1年生から1人1台 iPadを持ち、様々なアプリを利用しながら、情報活用能力、創造力、思考力、コミュニケーション能力を高めていくことを目指しています。タブレット



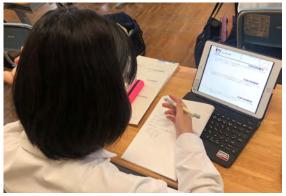
導入に際し、以下のiPad活用のビジョンを目指し、生徒と一緒に活用しています。

iPadの活用ビジョン Creativity can "Enrich life" 創造力が育てば人生が豊かになる

子どもたちが大人になる頃、どんな世の中になっているでしょうか。今では考えも及ばない新しい技術や文化が創造されていくことでしょう。そんな移り変わりの大きい世の中を生きていくために、学校では、知識を広げるだけでなく、さまざまな体験を通して、とのように人とつながっていくかを学びながら、自分たちで新しいものを創造していく力を身につけなくてはいけません。和歌山大学教育学部附属中学校では、『コミュニケーション』『協調性』『創造力』を大切に教育を行っています。

~和歌山大学教育学部附属中学校 iPad活用ブックより~

生徒自身で創造し、個に合った学習方法を見つける



▲画面上にプリントを表示して、ノートに書い て学習しています。



▲プリントがわからないときは、マルチメ解説 を再生しています。



▲『ロイロノート・スクール』にプリントを表示 ▲先生が配布したプリントで学習し、解答を してタブレットに書いて学習しています。

きルはと要断かめタ

を係テ

す



タブレットに表示して丸付けをします。

iPad活用 に関して

タ ツ 活 用 ൱ ル

破性 イ 一定考 で、 力ら ま 『ル期え を制 が とル 何 7 を的る た。 ギ 奪 限 を に 卜 い う 守に機 ッソ す めル L る 活 ら変 こ 卜 会 る〇 ては たを とに 子 ヤ な更を 用を Z の守 が 0) 11 L 活 持 で 5 な な 少 L 生 7 は、 1 用 5 す な 7 5 り な た 徒 V まな 4 が L か は ″っがま の始 いの ま 生 ダ L 1) で、『小となっとなっとなっ。例はて、例となっ。例となった。例となった。 す。 メル 徒 ク った ラ 1 る ルを何ちとル スル間ぺき え 一のナた 一生がの先 を

ばルなど判生決 表ル関ル と 授業に集中する 人を傷つけない できることとやって良いことが違うということを常に意識する クリエイティブな力を伸ばす使い方をする

iPad活用のルール 14 授業中にAirDropで友達に何かをこそこそ送らない 自分で開発したゲーム以外しない 音量は自分が聞こえる程度の小ささで使う いきなりWebで調べずに自分で考える力を磨く 友達のiPadを勝手に触らない 10 食事中はiPadを触らず会話を楽しむ 学校でYoutube等でアニメやゲームの動画を見ない 12 登下校中はiPadを使わない 13 イヤホンやパッテリーを授業に関係ないときは持ってこない 14 許可なく勝手に写真を撮らない

みんなのために良いことをした人感謝 氏 名 内容 2019.05.31 i プリのログインを指紋認証で簡単にする方法の提供 Wi-Fi の速度を上げる方法の提案およびインター 180000 ネット詐欺についての情報提供 iプリの画面をロイロノートにスマートに表示する ▲廊下に張っているリスト 簡単にできる方法の提供

- ・iプリのログインを指紋認証で
- ・iプリの画面を『ロイロノート・ スクール』にスマートに表示する 方法の提供



▲『ロイロノート・スクール』でプリ ントを表示しています。テスト範囲 のプリントを関連付けたりしてエ 夫しています。

生 が え た 活 用 方 法 を 共 す

のめ 生 に良 便利な活用 Oいことをした 方法に を掲 ても他 示し の生徒が知ることができた 7 1) ま 活 生徒が に 関 見 うけ て、 た、

上ばめのす てが よ学

1) ま

生 が 自

た

IJ

 \vdash に 合

に IJ 書 つ

する生

徒 習

も

トれす

ッソ 1)

プの

リた

え合うことができます

いた て 学

口

1 す か す な

口

1

卜

ク

ĺ

ス布

す

徒

ま ル 7

h

0)

ク

ラ

使

7

習

方

り

違

U

7 を

<

す 1

習

が

違

うだ を

で

0)

自け

11

を

生 ブ 学

徒 1)